平成 25 年 9 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社ファーストエスコ
代表者名 代表取締役社長 島﨑知格
(コード番号:9514 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役管理本部長 小池久士
(TEL. 03-5299-8525)
URL. http://www.fesco.co.jp/

大分県豊後大野市 木質バイオマス発電事業について

当社グループでは、大分県豊後大野市において、新たに木質バイオマス発電事業を推進することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 木質バイオマス発電事業推進の経緯

当社グループでは、平成 18 年より大分県日田市において「日田ウッドパワー」発電所を運営してまいりましたが、この発電所は今年 3 月以降固定価格買取制度の設備認定を受けた設備として、大分県を中心とする周辺地域の未利用林地残材などの森林由来燃料や、製材端材などの一般木燃料を積極的に購入し、事業を進めております。「日田ウッドパワー」の発電出力は 12,000kW で、1 年間の燃料使用量はおよそ 12 万tです。

この度の計画は、「日田ウッドパワー」型の 100%木質バイオマスを燃料とする発電所を大分県豊後大野市に開発する事業です。大分県は日本でも有数の森林県であり、本件事業では同県中南部を中心とした豊富な森林資源の利活用を見込んでおります。また大分県では、森林利用の促進や林業の振興を推進しており、将来的に森林系、製材系のバイオマス燃料の生産が増加していくことが期待されます。当社グループではこうした資源を有効利活用することを目的とした事業計画を大分県に提出し、この度、本件事業への支援決定の通知を受け、本件事業を推進することを決定いたしました。

2. 事業の目的

バイオマス発電は、再生可能エネルギーの中で唯一燃料を使用し、これを外部から購入しなくてはならないという性格を持っています。この為、木質バイオマス発電所は電気の供給者という 1 番目の役割と、木質燃料の購入者という 2 番目の役割を持っています。つまり固定価格買取制度のもとでは、電気の価格を制度的に保証されているのと同時に、森林系や製材系の木質燃料を積極的に購入・使用することが期待されているのです。本件事業の進出決定にあたり、大分県中南部地域を中心とした周辺地域の森林系、及び製材系木質燃料生産者の方々とは、将来に渡る材の生産や供給の検討をさせていただき、その結果バイオマス発電所の新設は地域の林業、製材業の振興に資するものであるとの確信に至りました。

また当社グループでは、約 7 年に渡り日田・白河の木質バイオマス発電所を継続稼働させております。ここで培った経験と技術を活かし、新たな発電所の建設に際しては既存の設備に対して大幅な修正を行い、より日本の森林系燃料に適した発電設備を設計、建設する予定です。大分県中南部の森林系、製材系資源を主たる燃料として、当社グループの木質バイオマス発電技術を活かし、地域に根差した自然エネルギー循環型モデルを構築することが当事業の目的です。

3. 事業の概要

【事業会社の概要】

会社名	アールイー大分株式会社
所在地	大分県日田市大字東有田字新山 2813-10
代表者	代表取締役　坂本　俊也
資本金	120 百万円
資本構成	ファーストエスコ 100%
設立年月日	平成 24 年 8 月
事業内容	木質バイオマスによる発電及び電力卸売事業

【木質バイオマス発電設備概要】

設備名称	大分第 2 木質バイオマス発電所(仮)
立地場所	大分県豊後大野市三重町菅生
敷地面積	約 65,000 ㎡
ボイラー蒸発量	約 90ton/時
定格出力	18,000kW
年間稼働日数	330 日/年(24 時間稼働)
年間発電量	約 120,000MWh/年(送電端)
燃料使用量	約 21 万 ton/年
総投資額	約 65 億円

4. 今後の見通し

当事業を推進するにあたっては、大分県、豊後大野市をはじめとする地域関係者との緊密な連携協力が欠かせません。現在、豊後大野市の協力のもとに用地の取得を進めており、発電所開発の開始時期は平成 25 年 10 月を目途に計画を進めております。また発電所の竣工、及び事業の開始時期につきましては平成 27 年を予定しております

本件に伴う当連結会計年度の当社グループ業績見通しに与える影響につきましては現在精査中であり、明らかになり次第改めてお知らせいたします。

以 上